

苦小牧市生物多様性地域戦略 進捗管理シート

取組内容		取組種類	指標	関連ゾーン	担当部署	令和7年度		令和8年度以降
						取組内容	判定	取組目標
基本戦略 ①：多様な生物が棲むことができる自然環境の維持・再生								
施策 1：【重点】貴重な自然環境を維持・再生し、生態系の多様性を回復・向上させます。								
1	苫小牧市自然環境保全地区の現状把握および、今後の管理と利用の基本方針を策定します。	拡充	現地調査の実施 管理と利用の基本方針の策定	C, E, D	・環境生活課	樽前ガロー整備	達成	トキサタマップ調査内容検討
2	市有林において、森林整備計画に基づき、適正な森林施業を行い、生物多様性の保全に寄与します	拡充	市有林森林施業面積 指標種の確認（有無/毎年）	C	・農林水産振興課 （旧緑地公園課）	・森林経営計画に沿った立木売却7.1ha、地拵え5.86ha、下刈り15.43haを行った。 ・71.39haに対し野鼠駆除を実施	達成	・森林経営計画に沿った施業を実施 ・野鼠駆除を継続し実施
					・環境生活課	指標種の検討	未着手	指標種の検討
3	河川や海浜の水辺の緑の保全として、適切な管理により苫小牧川、錦岡川、小糸魚川の親水施設機能を維持します。	拡充	親水施設機能の維持	C, E	・維持課	苫小牧川環境整備、親水施設の適切な維持管理（草刈り等）	達成	親水施設の継続的な維持管理
4	まちの骨格・シンボルとなる緑の保全と活用：都市地域に続く緑、水辺の緑を文化的な行事や水鳥観察地として活用します（樽前山、錦大沼公園、ウトナイ湖、苫東・つた森山林、弁天沼）。また、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地については、鳥獣保護区としての指定を検討します。	拡充	生物多様性に寄与する活用実績件数（1 件/年）	A, B, C, D, E	・環境生活課	ウトナイ湖において、自然観察会、漁業体験、後援会などを実施	達成	1 件/年を継続するとともに、ウトナイ湖のほか、活用できるフィールドを検討。
					・緑地公園課	市民植樹祭や緑化施設見学会などを実施	達成	前年同様に継続実施
5	河川や海浜の水辺の緑の保全・活用のため、港湾管理者と連携して、可能な範囲での自然海岸の植生の維持等に努めます。	拡充	指標種の確認（有無/毎年）	E, F	・企業政策室企業港湾政策課 （旧港湾・企業振興課）	植生の維持等の指標となる指標種を定める。	着手・検討中	指定種の確認を実施
					・維持課	未着手	未着手	関係部署と連携し指標種の有無を確認する
					・環境生活課	指標種の検討	未着手	関係部署と連携し現状を調査したうえで、指標種の検討を行う。
6	北海道へ美々川自然再生事業の促進やウトナイ湖の水深改善について継続的に要望するとともに、安平川水系（安平川、勇払川、美々川）の水質や水量の監視を実施します。	拡充	水質・水量の監視（1 回 1/年）	C, D	・ゼロカーボン推進室 ・政策推進室空港政策課	北海道の調査結果をもとに、安平川水系の水質を監視	概ね達成	前年同様に継続監視
					・環境生活課	北海道に対し、美々川自然再生事業を促進するとともに、安平川水系の水質、水量の監視を実施。	概ね達成	前年同様に継続監視
7	ウトナイ湖周辺の水鳥モニタリング調査結果等の自然情報を公開します。	継続	調査結果の公表（常時）	D	・環境生活課	水鳥全数カウント調査12回実施、ガン類個体数変動調査6回実施、ウトナイ湖周辺地域鳥類調査5回、ハクチョウ類生息調査通年	達成	前年同様に継続
8	トキサタマップ湿原を保全対象とし、環境基礎調査と継続的なモニタリングを行うとともに、在り方を検討します。	拡充	環境基礎調査とモニタリングの実施 在り方の検討	C	・環境生活課	環境調査内容を検討	着手・検討中	在り方の検討
9	市街地北側の丘陵地から海浜の緑をつなぐエコロジカルネットワークを保全します。	拡充	指標種の確認（有無/毎年）	C, D, E, F	・維持課	未着手	未着手	関係部署と連携し指標種の有無を確認する
10	身近な緑（樹木や草花）とのふれあいの場として公園や緑地を適切に維持・管理します。	継続	市民一人当たりの公園・緑地の開設面積（ha）	C, D, E, F	・緑地公園課	未着手	未着手	検討
11	苫小牧市版 OECM を推進します。	新規	“T-OECM（仮称）” 認証件数（5 件/令和 12 年（2030 年）まで）	C, D, E, F	・環境生活課	未着手	未着手	苫小牧市版 OECMの方向性の検討
12	生物多様性の取組を支援する枠組み（仮称）生物多様性の保全と活動認定証制度を検討します	新規	認証制度の導入検討	—	・環境生活課	未着手	未着手	活動認定証制度を検討
13	生物多様性増進活動促進法に基づいた自然環境の維持、回復又は創出します。	新規	「連携増進活動実施計画」の提出、「生物多様性維持協定」の締結	—	・環境生活課	未着手	未着手	連携の仕組みづくりを検討

取組内容				取組種類	指標	関連ゾーン	担当部署	令和7年度		令和8年度以降
								取組内容	判定	取組目標
	14	企業や団体等との連携により、自然環境を維持、回復又は創出します。	新規	連携した取組の回数（3回/年）	—	・環境生活課	共同イベント開催 ・ハスカップバンク・出光・北大研究林・内水業組合ほか	達成	年3回実施	
						・企業政策室企業港湾政策課 （旧企業政策室港湾・企業振興課）	トヨタ自動車北海道(株) 緑化優良工場等経済産業大臣賞受賞	達成	年1回 企業の希望により実施	
						・ゼロごみ推進室ゼロごみ推進課	市内小学校と大学での出前講座時にごみ拾いを実施し、周辺の環境美化に取り組んだ。（R7年度：2回）	達成	令和7年度の取組を引き続き行う。	
	15	森林環境譲与税を活用し、生物多様性に配慮した整備事業を推進します。	新規	譲与税を利用した事業の検討	—	・環境生活課	未着手	未着手	事業の検討	
						・緑地公園課	未着手	未着手	事業の検討	
						・農林水産振興課 （旧農業水産振興課）	森林経営管理制度に基づく民有林森林整備、間伐3,22ha	達成	森林経営管理権集積計画を立てる年度の為予定なし。	
	施策 2： ヒグマやエゾシカについてゾーンごとに順応的な管理手法を検討します。									
	1	鳥獣被害防止対策として、防除や捕獲等の対策を加速化させ、官民連携による効果的な森林被害対策と捕獲数の拡大をめざし、狩猟免許取得のPR活動や講習会の実施、野生鳥獣における被害実態の把握調査と生息分布調査、エゾシカ円卓会議を実施します。	拡充	エゾシカ捕獲頭数の増加（180頭/年）	—	・環境生活課	242頭	達成	180頭/年	
		2	ヒグマ対策：ドローンを活用したヒグマの出没、行動把握を行います。	新規	調査の実施	全域	・環境生活課	ヒグマ出没時に活用（5回）	達成	ヒグマ出没時及び生体調査での活用
		3	ヒグマ対策：危険箇所等の把握と関係機関との協議・連携を行います。	新規	ヒグマ対応訓練の実施（1回/年）	—	・環境生活課	1回実施（R8.2.17）	達成	1回実施
		4	ヒグマ対策：ゾーン管理計画を策定します。	新規	計画の策定	—	・環境生活課	策定済	達成	計画を適宜修正
		5	ヒグマ対策：ヒグマへの適切な対応を学ぶための普及啓発や勉強会を実施します。	新規	勉強会の実施回数（1回/年） 普及啓発のための情報発信	—	・環境生活課	2回実施	達成	出前講座の促進
	施策 3： 外来生物の侵入を防ぎ適切な対処により被害を抑制します。									
	1	港湾におけるヒアリの定着を防止するため、国と協力して監視します。	拡充	ヒアリの定着件数（0件（無し）/令和12年（2030年）まで）	F	・環境生活課	ヒアリの定着件数（0件（無し）	達成	国と連携した監視体制を徹底し、ヒアリの港湾定着「ゼロ」を維持する。	
						・企業政策室企業港湾政策課 （旧企業政策室港湾・企業振興課）	ヒアリの定着件数（0件（無し）	達成	国と連携した監視体制を徹底し、ヒアリの港湾定着「ゼロ」を維持する。	
	2	ミシシippアカミミガメやアメリカザリガニ等の外来生物の放流禁止看板の設置による市民周知・啓発を行います。	拡充	啓発・注意看板の設置	C	・環境生活課	未着手	未着手	実態調査 関係部署と協議	
						・緑地公園課	金太郎の池には既に放流看板設置済み 錦大沼公園には未設置	概ね達成	錦大沼公園に看板設置	
	3	外来生物に関する普及啓発及び駆除作業を実施します。	拡充	外来生物の駆除の実施（1回/年）	—	・環境生活課	アライグマの捕獲を実施（ワナ貸391頭・委託201頭・直営41頭 計633	達成	アライグマ捕獲事業を継続するとともに、そのほかの特定外来生物の駆除を検討	
	4	自然環境保全地区等において、市民・事業者による抜き取り等外来種対策を支援します。	新規	外来種対策実施件数（1件/年）	C, D, E	・環境生活課	未着手	未着手	実施場所、実施方法などを検討	
	5	港湾部周辺の外来植物の侵入・定着状況の現状把握と情報発信を行います。	新規	現状把握と情報発信	D, F	・環境生活課	未着手	未着手	関係各課と協議し、定着状況の現状把握を行う。	
	6	アライグマ対策用品（箱わな等）の貸し出しによる捕獲頭数の拡大を推進します。	新規	捕獲頭数（500頭/年）	—	・環境生活課	ワナ貸による捕獲頭数391頭（ワナ貸106件）633頭 ※R6年度344頭	達成	500頭/年	
施策 4： 勇払原野に自生するハスカップを保全し継続的に活用するため、生育環境のモニタリングと生育地の保全に取り組みます。										
（重点施策 1, 8, 11, 12, 13, 14, 15 と連携して推進します。）										

取組内容		取組種類	指標	関連ゾーン	担当部署	令和7年度		令和8年度以降
						取組内容	判定	取組目標
基本戦略 ②： 様々な施策課題の解決に、山-川-湿原-湖沼-海の生態系を活用								
施策 1： 【重点】自然を活用した解決策（NbS）を導入し、生物多様性保全、気候変動緩和、循環型社会の構築をさらに推進します。								
1	【基本戦略①施策1-5再掲】河川や海浜の水辺の緑の保全・活用のため、港湾管理者と連携して、可能な範囲での自然海岸の植生の維持等に努めます。	拡充	【再掲】指標種の確認（有無/毎年）	E, F	・企業政策室企業港湾政策課 （旧企業政策室港湾・企業振興課）	植生の維持等の指標となる指標種を定める。	着手・検討中	指定種の確認を実施
					・維持課	未着手	未着手	関係部署と連携し指標種を定め有無を確認する
					・環境生活課	植生の維持等の指標となる指標種を定める。	着手・検討中	関係部署と連携し指標種を定め有無を確認する
2	再生可能エネルギー導入に係るリスクの可視化と点検を実施します。	拡充	点検の実施	—	・ゼロカーボン推進室	市内の既存太陽光発電事業者について現地調査を行い、看板未設置、柵の破損等があれば資源エネルギー庁へ通報した。	概ね達成	令和8年度以降は維持管理報告書を確認し、現地調査を継続
3	雨水貯留等のグリーンインフラ機能の維持としての、安平川水系河川整備計画における、弁天沼周辺の河道内調整地の生物多様性の保全に配慮した工事の実施を要望します。	拡充	継続的な要望・工事の監視	D	・環境生活課	令和7年度における工事の進捗把握と情報収集を行った。	着手・検討中	工事の進捗把握と情報収集を継続し取組み、北海道に対し生物多様性に配慮した要望の検討
施策 2： 多様なステークホルダー（利害関係者）が連携することで、社会課題の解決につなげます。								
1	生物多様性保全に資する研究・活動にフィールドを提供します。	拡充	フィールド提供件数（3件/令和12年（2030年）まで）	C, D, E, F	・環境生活課	フィールドの検討	着手・検討中	フィールドの検討
2	海岸の生物多様性保全として、団体・市民等と協力した海岸清掃や、生分解性プラスチックへの移行推進等を行います。	継続	海岸清掃の実施回数（3回/年）	F	・ゼロごみ推進室ゼロごみ推進課	春・秋の大掃除及びゼロごみの日を通じて、30の団体・市民と海岸清掃を行った。	概ね達成	令和7年度の取組を引き続き行い、多くの団体や市民に協力を呼びかけていく。
基本戦略 ③： ネイチャーポジティブを達成する地域産業や市民の暮らしの活性化								
施策 1： 【重点】生物多様性に配慮したビジネスモデルへの確実な移行と、苫小牧市特有の生物多様性（豊富な水やハスカップ等）を活用した産業を創出・育成します。								
1	【基本戦略①施策1-12再掲】生物多様性の取組を支援する枠組み（仮称）生物多様性の保全と活動認証制度を検討します。	新規	【再掲】認証制度の導入検討。	—	・環境生活課	未着手	未着手	枠組み及び生物多様性の保全と活動認証制度を検討
2	ハスカップ、ヤチヤナギ等、自生種の保存と活用に向けた活動を推進し、保護増殖等の取組を支援します。	拡充	ハスカップバンクへの参加団体数増加 取組参加者の増加（8団体、延べ参加者数の増） ハスカップやヤチヤナギの遺伝資源の保存場所の確保目標値（3箇所/2030年まで）	C, D, E	・環境生活課	参加団体増加に向け、オブザーバー企業の獲得（1社）	概ね達成	ハスカップバンクへの積極的な関与 新規団体の獲得
					・緑地公園課	参加団体増加に向け、オブザーバー企業の獲得（1社）	概ね達成	ハスカップバンクへの積極的な関与 新規団体の獲得
3	エゾシカの適正管理による被害の軽減と有効活動を推進します。	新規	農業被害の低減 野生鳥獣による被害額（前年比で減少） 交通事故件数（前年比で減少）	B, C, D, E, F	・環境生活課	有効活用として捕獲したエゾシカ肉を学校給食へ提供。交通事故対策として見通しをよくするための草刈りを実施。	達成	エゾシカ肉の有効活用を拡大
					・農林水産振興課 （旧農業水産振興課）	道からの補助金を用いて農地に金網柵・電気柵を設置	達成	道からの補助金を用いて農地に金網柵・電気柵を設置
施策 2： 持続可能な農林水産業への転換を積極的に推進します。								
1	漁獲対象種のサイズ制限や禁漁期間の設定等により、ホッキガイ、サケ、マツカワ等の持続可能な水産資源の確保と、ふ化事業を推進します。	拡充	水産資源の増殖事業に対する補助の実施	F	・農林水産振興課 （旧農業水産振興課）	ホッキ貝においては当市独自基準による漁獲サイズ基準設定および禁漁期間の順守、マツカワにおける管内種苗放流事業等	達成	ホッキ貝においては当市独自基準による漁獲サイズ基準設定および禁漁期間の順守、マツカワにおける管内種苗放流事業等
2	地場産品の積極的な学校給食への活用推進と、子供たちへの食育を行います。	拡充	継続可能な地場産品を使った学校給食の提供回数（4回/年）	C	・学校給食共同調理場	苫小牧産のます、たら、かじかを学校給食に提供した	概ね達成	地場産品を使った給食提供を継続し、年4回の提供を目指す
3	環境負荷低減に配慮した農業の普及啓発に取り組みます。	新規	普及啓発の実施	C	・農林水産振興課 （旧農業水産振興課）	化学肥料低減定着支援事業などの補助金を用いて、環境負荷低減に配慮した農業の普及啓発に取り組んだ	達成	来年度も普及啓発に取り組み、補助金等を用いて、農薬、化学肥料の適正使用に関する情報発信を行っていく

取組内容		取組種類	指標	関連ゾーン	担当部署	令和7年度		令和8年度以降	
						取組内容	判定	取組目標	
施策 3：生物多様性を活用して二次・三次産業を積極的に支援します。									
	1	樽前山、美々川、ウトナイ湖を対象とした苫小牧市への誘致モニターツアーを実施し、生物多様性を学べるモデルコースを設定します。	拡充	モデルコースの設定 モデルコースの情報発信	A, D	・環境生活課	未着手	未着手	調査・検討
						・観光政策課 (旧観光振興課)	未着手	未着手	検討
	2	エコツーリズムに関する情報（ツアーやフットパス等）を集約して発信し、エコツーリズムにおけるマナーの啓発も行います。	拡充	情報発信ポータルの設置	―	・環境生活課	未着手	未着手	調査・検討
						・観光政策課 (旧観光振興課)	ポイ捨て禁止の多言語ポスター掲示	達成	継続
	3	エコツーリズムとしての野鳥観察や湿原利用のルールを作成します。	拡充	利用ルールの作成	―	・環境生活課	未着手	未着手	検討
						・観光政策課 (旧観光振興課)	消毒マットの設置、自然景観の保護のため、進入禁止のコーンの設置、来館者への声掛けなどを実施。	達成	道の駅館内にエコツーリズムの観点から野鳥観察に関する案内情報を掲載する。
	4	ビジット苫小牧観光会議等の場を活用し、エコツーリズムの気運の醸成を図ります。	新規	―	―	・環境生活課	未着手	未着手	関係機関と連携し検討
						・観光政策課 (旧観光振興課)	未着手	未着手	検討
基本戦略 ④：自然と生きものと共存できる暮らしへの転換、潤いある生活と文化の継承									
施策 1：【重点】環境教育を強化し、生物多様性に関わるユース世代の活躍を支援します。									
	1	小学校等での環境教育を実施します。	拡充	小学校等における「自然ふれあい事業（ウトナイ・生きもののラボ）」「こころの授業」の実施回数（50回/年）	―	・環境生活課	ウトナイ・生きもののラボ5回実施、こころの授業35クラス実施	概ね達成	ウトナイ・生きもののラボ最大15回。全小学校でこころの授業を実施
						・指導室	こころの授業の実施回数：49回	概ね達成	全小学校でこころの授業を実施
	2	環境副読本の更新時に、生物多様性に関する記載を盛り込みます。	新規	副読本に生物多様性を記載	―	・環境生活課	作成済み	達成	随時見直しを図り修正する
	3	地域と連携した緑化活動にて、自然環境や生物多様性について学べる環境教育を実施します。	拡充	生物多様性を学ぶ自然体験・環境教育の実績件数（1件/年）	―	・環境生活課	講演会実施1回（R9.3月）	達成	環境教育の場を検討・実施
	4	プラスチックごみの排出量を削減するために、市民や事業者の行動変容を促すための支援を実施します。	拡充	支援事業の件数（2件）	―	・ゼロごみ推進室 ゼロごみ推進課	レジ袋削減に基づく協定により、市内各店舗を通し、マイバック持参を推奨した。 港まつり出店者にワンウェイプラスチック削減の周知を行った。	概ね達成	令和7年度 of 取組を引き続き行い、出前講座にて、プラスチック削減を呼びかける。
施策 2：生物多様性を活用し、誰もがウェルビーイング（身体的に良好なだけでなく心身ともに満たされた状態）を感じられるまちを実現します。									
	1	道の駅、ウトナイ湖遊歩道等、自然と触れ合う場の維持・管理や利用者に対する情報発信を実施します。	拡充	自然情報の発信回数（12回/年）	D	・環境生活課	ウトナイ湖通信の発行12回、SNS376回更新	達成	前年同様に継続
						・観光政策課 (旧観光振興課)	道の駅ウトナイ湖の公式インスタグラムにて情報発信を行っている。	達成	インスタグラムのフォローワー数を5,000人到達を目標にさらなる情報発信に努める。
	2	生物多様性や文化継承に関連する講座や資格講習会の実施、ボランティア機会の創出、人材育成、緑化相談、情報発信等を実施します。	拡充	ボランティア活動の機会（5回/年） 講座や講習会等の実施（3回/年）	―	・環境生活課	観察会・調査業務等におけるボランティア活動の実施。講座等の実施。	達成	前年同様に継続
						・緑地公園課	サンガーデンでの緑化相談 287回/年	達成	前年同様に継続
						・美術博物館	生物標本の製作・整理作業のボランティア活動の実施	概ね達成	引き続き、生物標本の製作・整理作業のボランティア活動の実施
	3	北海道大学苫小牧研究林の研究活動や教育活動を広く市民に共有する機会を支援します。	拡充	研究活動の公開や利用の件数（2件/年） 苫小牧研究林が実施する環境教育活動への支援策の検討	B	・環境生活課	ハスカップバンク（バスツアー）を実施	概ね達成	苫小牧研究林でのイベントを検討・実施

取組内容				取組種類	指標	関連ゾーン	担当部署	令和7年度		令和8年度以降	
								取組内容	判定	取組目標	
		4	就労支援として、生物多様性の保全に役立つ技術習得（緑地管理の軽作業や、自然の知識等）のためのプログラムを実施します。	新規	就労支援プログラムの実施	C, E, D	・ 総合福祉課	生活支援室と協力し、総合福祉課で関わりのある就労に向けて準備中の方々が旭中央通沿いの落ち葉清掃を行った。	概ね達成	令和7年度と同様の取組予定	
							・ 障がい福祉課	生物多様性に関する技術取得に特化したものではないが、障がい者就労支援事業を実施している。	着手・検討中	引き続き事業を継続する。	
		5	ウェルビーイングを向上するため、誰もが（多様な対象）自然の恩恵を受けられるよう、緑や生きものをとおした自然体験の機会を創出します。	新規	多様な対象に向けた自然体験の機会創出	B, C, E, D	・ 美術博物館	コケの観察会・標本製作体験の実施	概ね達成	コケの観察会・地層標本製作体験会の実施	
							・ 環境生活課	次年度に向けた取組を検討	着手・検討中	関係課と連携した、取組を検討	
	・ 総合福祉課						アイヌ語講習会の一環として 苫小牧研究林の中を散策し、自然の中の樹木を見ながらアイヌ語を学ぶ。	概ね達成	令和7年度と同様の取組予定		
	・ 障がい福祉課						日常生活用具給付等事業4,230件	達成	引き続き事業を継続する。		
	施策 3： 樽前山から海へと続く、苫小牧ならではの郷土の風景、文化を維持します。										
		1	【②2-2再掲】海岸の生物多様性保全として、団体・市民等と協力した海岸清掃や、生分解性プラスチックへの移行推進等を行います。	拡充	海岸清掃の実施回数（1回/年）	—	・ 環境生活課	未着手	未着手	関係団体との協議・実施計画の検討	
	施策 4： 野生動物と人との軋轢を解消するため、具体的な対策を検討します。										
		1	エゾシカ円卓会議を継続して実施することで、対応策の検討に活かします。	拡充	エゾシカに関する交通事故件数の減少（前年比で減少） 農業被害の金額（前年比で減少）	—	・ 農林水産振興課（旧農業水産振興課）	エゾシカ円卓会議を開催	達成	エゾシカ円卓会議にて農業被害削減における対策を検討	
							・ 環境生活課	エゾシカ円卓会議を開催	達成	エゾシカ円卓会議にて生活環境被害削減における対策を検討	
		2	市民向けの野生動物に関する勉強会や出前講座等を実施します。	拡充	勉強会や出前講座の実施件数（4回/年）	—	・ 農林水産振興課（旧農業水産振興課）	ハンターを集めてくぐり罠によるエゾシカ捕獲講習会を実施した（1回）	達成	くぐり罠によるエゾシカ捕獲講習会を以て、適切な情報発信を行っていく	
							・ 環境生活課	ヒグマ出前講座2回 野鳥出前講座 勉強会	達成	継続した出前講座を開催	
	3	苫小牧市自然環境保全審議会による協力体制の構築と進行管理を行います。	新規	苫小牧市自然環境保全審議会での進捗報告（1回/年）	—	・ 環境生活課	戦略の概要及び今後の進め方について説明	達成	進捗説明・未着手項目の検討		
基本戦略 ⑤： 自然・生物情報を活用するための基盤整備											
施策 1： 【重点】科学的なデータや自然情報の蓄積と共有、情報交換の場を整備、市域全体の生態系ネットワークが見える化（地図化）し、基本戦略①②③④を円滑にかつ具体的に進めます。											
	1	国や北海道、苫小牧市美術博物館等と連携して、基礎的な生物調査や環境調査を実施し、科学的なデータを蓄積します。	拡充	生物情報データベース作成	—	・ 環境生活課	未着手	未着手	基礎となる生物調査や環境調査の内容を検討		
						・ 美術博物館	コケ標本の同定を進め、結果を当館研究報告に掲載。	着手・検討中	昆虫類(主にトンボ類)の分布調査、生息種リストの作成。		
	2	自然環境に関する情報（生物情報データベース、自然利用ルール等の教育情報、エコツーリズム情報等）をオンラインのポータルに集約して公開し、SNS等も活用して情報を発信します。	拡充	ポータルの設置 SNSの活用回数（4回/年）	—	・ 環境生活課	鳥獣保護センターの活動をSNS等を活用し発信した。	着手・検討中	他市調査するなど情報収集を行い、拡充を検討		
	3	保全活動に活用するため、ハスカップやヤチヤナギの自生地情報を苫小牧市美術博物館で集約し、自生地マップを作成します。	新規	地図情報の整備	—	・ 環境生活課	未着手	未着手	自生地集約・マップ作成方法を関係課と検討		
・ 美術博物館						未着手	未着手	自生地集約・マップ作成方法の検討			
4	生物多様性の回復・創出支援用の生物多様性現状マップ（多様性の向上が可能、劣化地を示したマップ）を随時更新します。	新規	マップの作成・更新	—	・ 環境生活課	未着手	未着手	マップ作成の基礎となる現状把握のための調査を検討			

取組内容				取組種類	指標	関連ゾーン	担当部署	令和7年度		令和8年度以降
								取組内容	判定	取組目標
		5	苫小牧市指標種の選定を行います。	新規	指標種の選定	—	・環境生活課	未着手	未着手	指標種選定の検討
							・美術博物館	未着手	未着手	指標種選定の検討
		6	苫小牧市版レッドリストを作成します。	新規	レッドリストの作成	—	・環境生活課	未着手	未着手	レッドリスト作成の検討
							・美術博物館	未着手	未着手	掲載種選定の検討
		7	指標種を対象とした市民参加型調査を実施します。	新規	調査の実施件数（3件/令和12年（2030年）まで）	A, B, C, D, E, F	・環境生活課	未着手	未着手	指標種の検討
	施策 2：生物多様性の向上に資する取組を支援する制度設計を推進します。									
		1	環境保全や生物多様性に配慮した企業の取組に対してのインセンティブ（入札参加要件の優遇、加点措置等）を設定します。	新規	インセンティブの導入検討	—	・環境生活課	未着手	未着手	他市の取組調査
		2	市の事業で生物多様性への不可逆的な作用がないか点検します。	新規	事業の点検	—	・環境生活課	年度終了後調査をする	着手・検討中	各事業の点検
	施策 3：北海道、周辺市町村、国との連携を強化し、産学官民の ALL 苫小牧で、生物多様性の保全対策を推進します。									
		1	近隣自治体及び北海道、国との広域連携を強化します。また、必要に応じて生物多様性地域戦略の見直し等を行い、ALL 苫小牧で戦略を確実に推進します。	新規	協力体制の構築 生物多様性地域戦略の見直し	—	・環境生活課	近隣自治体及び北海道、国と意見交換を行いながら情報収集し、戦略進める	着手・検討中	近隣自治体及び北海道、国と意見交換を行いながら情報収集し、戦略進める